静岡ワイド

静岡硬式野球倶楽部 涙の準V

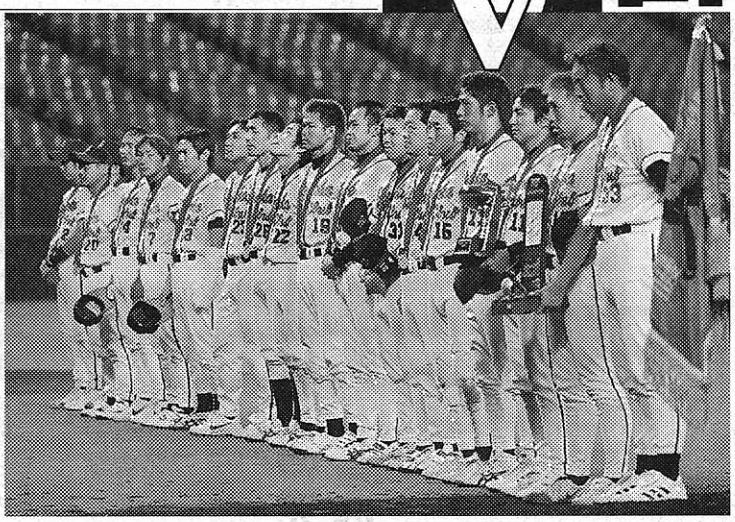
全国クラブ野球選手権

第28回全国クラブ野球選手権大会は7日、西武ドームで準決勝、決勝を行った。13年ぶりの全国制覇を狙った静岡硬式野球倶楽部だったが、大会4試合すべてに登板したエース・金田穂波(29)の力投も及ばず札幌ホーネッツ（北海道）に3―8で敗れ、惜しくも準優勝に終わった。

▽準決勝
静岡硬式野球倶楽部　000 010 000　2
全足利クラブ（北関東）　001 000 000　1　3
（延長10回）
（静）金田―栗城
（全）小口、渡辺―松島
▽二塁打＝津久井（全）
▽決勝
札幌ホーネッツ（北海道）　102 000 320　8
静岡硬式野球倶楽部　000 300 000　3
（札）沢田―中島
（静）石川、金田―栗城
（本）明石、宮越（札）▽三塁打＝明石（札）▽二塁打＝宮越（札）、実石（静）

金田力投及ばず

あと一歩及ばなかった。最後の打者・桜井拓郎(23)の打球は力なく一邪飛に打ち取られ試合終了。初出場ながら、勢いに乗る札幌を相手に無念の準Vに終わった。「勝ちたかった。連れて来てくれた選手に感謝しています」といつも陽気な



惜しくも準優勝に終わった静岡硬式野球倶楽部

恵まれない環境に負けず〝結果〟 「似たチームの手本に」

杉山克己監督(35)も流れ出る涙を抑えることができなかった。

準決勝では左ひざ下に打球を受けながらも完投勝利。決勝でも三回途中からマウンドに登ったエース金田も、表彰式では涙を抑えるかのように天を仰いでいた。「新しい課題も見えたし、楽しく野球ができた」と真っ赤な目をしながらも、最後には笑顔で大会を振り返った。

クラブチームゆえの練習時間の短さや、ケガ人にも悩まされたが「チームワークと集中力はいつも以上にあった」（金田）というように大量点や接戦など、どんな試合展開にも最後まで切れることがなかった。悔しさの中にも、選手たちに確かな自信ができたことは事実だ。

「恵まれない環境のクラブでもここまでやれた。似たようなチームの手本になれば」と杉山監督。あと一歩だった全国の頂点。来年は磐田での開催とあって、ナインは地元でのリベンジを目指して、早速スタートを切る。

（村上　大輔）

1歳長男に贈る 田造決勝進出打

○…準決勝で決勝打を放った四番・田造哲也(32)の長男・准也くんはきょう8日が1歳の誕生日。「バースデーアーチを期待しているんですが…」という母・富士子さんに抱かれながら、父の勇姿を見つめていた。試合後、准也くんは父の胸にかかったメダルを「いつか自分も！」といいたげに興味深げに手にしていた。